

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-69014

⑫ Int.Cl.¹
A 61 K 9/70

識別記号 厅内整理番号
6742-4C

⑬ 公開 昭和60年(1985)4月1日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3)

⑭ 発明の名称 皮膚疾患治療用貼付剤

⑮ 特 願 昭58-179792
 ⑯ 出 願 昭58(1983)9月27日

⑰ 発明者 高倉 由美子	茨木市下緑積1丁目1番2号	日東電気工業株式会社
⑰ 発明者 佐藤 遼	茨木市下緑積1丁目1番2号	日東電気工業株式会社
⑰ 発明者 伊藤 嘉章	茨木市下緑積1丁目1番2号	日東電気工業株式会社
⑰ 発明者 阿部 容子	茨木市下緑積1丁目1番2号	日東電気工業株式会社
⑰ 出願人 日東電気工業株式会社	茨木市下緑積1丁目1番2号	

明細書

1. 発明の名称

皮膚疾患治療用貼付剤

2. 特許請求の範囲

1) 透明体を有する支撑体上に、ソラレン又はその誘導体と紫外線吸収剤を配合した透明体を有する感圧性接着剤層を構成してなる皮膚疾患治療用貼付剤。

2) ソラレン誘導体が8-メトキシソラレン、4,5,8-トリオキシソラレンから選ばれた少なくとも一種である特許請求の範囲第1項記載の皮膚疾患治療用貼付剤。

3) 紫外線吸収剤がグアイアズレン、カムアズレンから選ばれた少なくとも一種である特許請求

照射することにより、尋常性白斑及び乾燥軟肉症、頸乾症、脂溢性皮膚炎、掌跖乾燥症等の疾患の治療を行なう方法が使用されつつある。

その療法は、ソラレン又はその誘導体を有するか、或いは酸誘導体を含むする飲料又はソラレンを皮膚部に含有するかした後、波長が～380 nmの近紫外線(以下UV-Aといふ)を照射するものである。

しかしして、内服による方法は、ソラレンの誘導体が循環器系に作用するため、疾患のところもUV-A感受性が高められ、このUV-Aが照射されると炎症を起こすことが過敏疾患の治療法として技術的である。UV-A感受性は一般に6～8時間持続する。

特開昭60- 6901

らが残留していると過度の炎症を起すことがあるからである。

またソラレン又はその誘導体の治療効果を発揮する波長領域は315～320㎚のUVAであり、310㎚以下の短波長領域の紫外線が照射されると、強度の日焼けや、紅斑、時には過度の炎症を生じるので日光などによる始まりは好ましくなく、UVA遮蔽装置による治療を必要とした。

本発明者らは以上の問題点に着目し研究を重ねた結果、ソラレン又はその誘導体と特定波長の紫外線を吸収する紫外線吸収剤とを組み合わせて透明性を有する感圧性接着剤に配合し貼付剤にすることにより、炎症などの副作用が少なく、尚且ち皮膚疾患治療効果が得られることを見い出し、本発明に至ったものである。

即ち、本発明は透明性を有する支持体上に、ソラレン又はその誘導体と紫外線吸収剤を配合した透明性を有する感圧性接着剤を樹脂した貼付剤を提供するものである。

本発明に用いられる支持体は貼り付け治療によ

って薬液成分を貼付面に亘り皮膚面へ投与の支持部材であり、且つ、ソラレン又は導体による皮膚疾患の光治療を有効にする透明性を有するものが選ばれる。

兼って治療に有効なUVAを少なくとも3好ましくは50μ以上透過させるもので支持体ではなく、例えばポリプロピレン、ポリチレン、ポリビニルアセタール、ポリスチルエチルなどからなるプラスチックが挙げられる。

本発明の貼付剤を皮膚面に適用する対象な透明性を有する感圧性接着剤は、支持体にUVAを少なくとも30μ、好ましくは50μ以上透過させるものが選ばれる。また治癒局部から漏洩りすることなく確実する効率な吸収力を付与したもののが望ましく、(メタ)アクリル酸アルキルエステルの共体、酢酸エチルと共重合可能なモノマーと共体、ビニルエーテル系混合体などが挙げられる。

ソラレン又はその誘導体としては、ソラ

8-メトキシソラレン、4,5,8-トリオキシソラレン以外に、5,8,2-メトキシソラレン、4,5,2-ヒドロキシソラレン、8-ヒドロキシソラレン、5-メトキシソラレンなどを例示することが出来るが、これらの含有量は貼付剤1g当たり1.0～3,000μg、好ましくは50～1,000μgの範囲で設定される。

ソラレン又はその誘導体は感圧性接着剤中に均一に含有するよう配合するか、又は貼付時の初期効果を高める目的で皮膚接着面側に表面塗布などにより高濃度で含有させることも出来る。

本発明で用いられる紫外線吸収剤としては、過度の照射により皮膚炎を生起させる波長310㎚以下ので紫外線を吸収し、ソラレンに対して有効な

クナルフェニルサリチレートなどのサリチル酸塩や、グアイアズレン、カムアズレン等が挙げられるが、好ましくは塗膜遮作用として抗アレルギー、菌糸再生作用を有するグアイレン、カムアズレンから選ばれた少なくとも配合することが好ましい。上記アズレン類に対して特に有効な270～310㎚を遮めてよく吸収し、治療に有効なUVA透過し、且つ併発する炎症の予防、治療効果する。これらの紫外線吸収剤の含有量は目標当たり0.1～1,000μg、好ましくは1～50μgの範囲で設定される。

また上記紫外線吸収剤以外に、必要に直観的にUV-Aの透過を阻害しない配合剤、

特開昭60- 69014

るものである。

登録しの使用方法としては、就寝前に該貼付剤を貼付するか、超導装置中に納付し、充分に皮膚疾患部へソラレン又はその誘導体を施行せしめた後、UVAを照射するか、太陽光を浴びるのが好ましい。

また本発明の貼付剤は治療後、皮膚面より剥離することによって、ソラレン又はその誘導体の供給が停止されるので、治療及び治療後の後始末が簡単であるという特徴を有する。

以下本発明の実施例を示す。なお文中部あるのは重複部を示す。

実施例1

アクリル酸2-エチルヘキシル10.0部、過酸化ベンゾイル0.1部、酢酸エチル15.0部を還流浴槽器及び搅拌器を有する反応器内に仕込み、不活性ガス雰囲気下で12時間、液的温度を6.0～6.4℃に制御しながら混合を行ない適正な接着剤溶液を得た。

上記諸溶液から不純物を除去し、その精製液由

該複合剤の固形分濃度が2.0重量%となる酢酸エチルを加え、更に8-メトキシソラレンアイソアズレンを添加配合し、これを離型紙上に乾燥後の厚みが4.0μmとなるよう乾燥して、造膜化し、これをUVA透過率のポリプロピレンフィルムに転写し、得た。(8-メトキシソラレン含有量2.0グマイソアズレン含有量4.0μg/㎠)

得られた貼付剤及び市販の8-メトキシン含有軟膏を場所性皮膚疾患部に2時間遮太陽光を照射したところ、共に同様の蒸発されたが、軟膏では炎症による紅斑を生じた貼付剤は治療後、疾患部に拘束りなくなることが出来たが、軟膏の場合には充分に施必要があつた。

更に開発用である炎症の発現度を測定すれば、上施用側部位左右正常皮膚に斜られると、グアイアズレンのみを除去したプラン付剤を貼付し、直ちに30分間紫外線照射し発現する炎症度を比較した。

アズレン含有の貼付剤は貼付前と全く変化はないが、プランクの貼付剤は過度の炎症を生じ、約7.2時間炎症が持続し、治療のための消炎薬を必要とした。

以上のように本発明の貼付剤によると皮膚疾患部の治療を有効に行ない、且つ併発する炎症を充分に防止することが判明した。

特許出願人

日東電気工業株式会社
代表者 土方三郎